第５章　地域支援活動の実際

1.　2014 年度の活動実績

地域	活動内容	対象	参加人数（大学院生）	担当	実施日
沖縄市	発達支援通園事業連絡協議会研修会	保育士，幼稚園教諭，心理士など	69 名	土岐	6 月 14 日
霧島市	保健師研修会	保健師	24 名	服巻	6 月〜 3 月（月 1 回）
鹿児島市	生活保護担当職員研修会	生活保護担当職員	約 70 名（1 名）	服巻	7 月 7 日
伊佐市①	就学予定児と年中児のための講演会	支援者，保護者	160 名（5 名）	土岐	7 月 8 日
宮古市	東北での震災被災地支援	被災者	約 120 名（3 名）	服巻	7 月 29 日〜 8 月 2 日
鹿児島市	思春期・青年期における講演会	保護者	38 名（5 名）	土岐	8 月 1 日
鹿児島市	特別支援教育研修会	学校教諭，保育士，保健師など	100 名	土岐	8 月 5 日
日置市	教育講演会	保護者，教職員	約 100 名（6 名）	平田	9 月 5 日
京都市	電話相談員研修会	支援者	30 名（4 名）	松木	9 月 23 日〜 25 日
鹿児島市	動作法研修会	心理士，医師，看護師	11 名（1 名）	服巻	9 月 24 日
佐賀市	ペアレントメンター研修会	保護者	約 10 名	服巻	10 月 10 日・31 日
鹿児島市	ストレスマネジメントセミナー	支援者	約 100 名	服巻	10 月 11 日
伊佐市②	就学相談活動	年長児	18 名（5 名）	土岐	10 月 29 日 11 月 5・11 日
鹿児島市	産業メンタルヘルス研修会	病院職員	約 25 名（5 名）	松浦	10 月 31 日
種子島	自閉症研修会・事例検討会	生活支援員，保育士など	74 名	小澤 平田	11 月 28 日
鹿児島市	グループワーク	中学生	約 50 名（6 名）	松浦 金坂	12 月〜 2 月
鹿児島市	RIFCR 研修会	心理士，市町村職員，保健師など	40 名（9 名）	小澤	2 月 15 日
計	**17 回**	**約 1,000 名（大学院生 50 名）**			

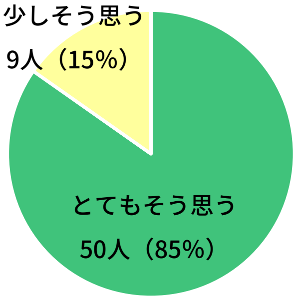
2. 各地域における支援活動

(1) 伊佐市における支援活動

伊佐市では，「就学を考える会」の講演，就学時健診と大学院生の知能検査協力，就学相談会と，担当教員の土岐を中心として，スタッフと大学院生も関わり，継続した地域支援活動を行いました。

①**保護者・支援者対象講演会：**就学に関する基本的事項，発達的課題，生活習慣の自立について講演を行いました。就学相談会につながりやすいよう，気になる様子や行動も紹介しました。大学院生も講演内容の準備から参加しました。
②**就学時健診・知能検査：**地域支援スタッフで健診方法のインストラクションビデオ作成し，小学校教員に事前研修を行いました。また 10 月・11 月には相談会の申込みがあった児童を対象に大学院生 5 名と修了生 2 名が田中ビネー知能検査Ｖを実施しました。
③**就学相談会：**知能検査の結果を基に，大口病院の塩屋友美氏（臨床心理士）と土岐が，9 組の親子を対象に就学相談を行いました。大学院生にとっては，実際の現場で直ちに求められる，発達検査のまとめ方，伝え方，相談の進め方など，臨床実践を目の当たりに学ぶことができました。

講演会の様子



講演会は役に立ちましたか？

(2) 霧島市における支援活動

乳幼児健診は，子どもの成長を見守り，子育てを支援してゆく役割とともに，発達障害児の早期発見のためのスクリーニングとしての役割を持っています。

霧島市では，1 歳 6 ヶ月児，3 歳児健診において，発達の追跡フォローをする割合がここ数年で急増しています。これまで地域支援プロジェクトでは，子どもを見立てる視点や保護者とのコミュニケーション力の向上など，保健師からのニーズに応えた研修を行ってきました。

今年度は，プロジェクトチーム（服巻，小澤，平田）へのニーズとして，乳幼児健診の追跡フォロー率の検証，ならびに健診システムの検討が挙げられ，臨床心理学・発達心理学の視点から助言・指導を行いました。

我々チームは，毎月 1 回，霧島市すこやか保健センターを訪問し，健診にかかわる保健師と 1 歳 6 ヶ月，3 歳児健診の実技や問診項目について，デンバー式発達スクリーニング検査，新版 K 式発達検査 2001 などを参考にしながら見直しを行い，霧島の実情に合わせた健診のマニュアル作りを行いました。同時に，健診結果の検証研究を行うため，臨床心理学研究科は霧島市に対して個人情報の取り扱いに関する誓約書を提出しました。

実際の研修の様子

(3) 鹿児島市における支援活動

1) 生活保護担当職員研修会

2014 年 7 月 7 日に，鹿児島県社会福祉協議会主催生活保護担当職員研修会の一部として，職員のコミュニケーション力向上とストレス対処法を学ぶための研修を行いました。鹿児島県社会福祉センターにおいて担当教員の服巻が，大学院生 1 名を研修サポーターとして同伴し支援活動を行いました。

研修内容は「相談者が抱えるストレスとそのケア」であり，対人援助職が抱えやすい環境とストレス反応について，研究データを提示しながら具体的に説明し，職員自身が持っているストレス反応への対処法を話し合い，かつ新しい方法としてのリラクセイション技法を提示しました。

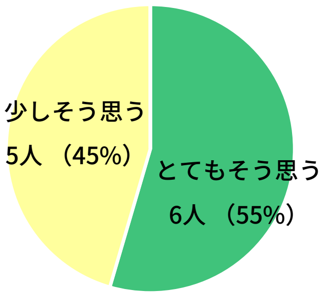
・地域の就労を支えている，現場で活躍されている方々は心理的ニーズを有しているのか，最初は疑問だったが，ペアリラクセイションを行った終盤あたりは，次第に笑顔も見られるようになり，相談室とはまた違った側面のニーズに触れられたように思う。

研修会に参加した大学院生の感想

2) 武井内科クリック職員研修

2014 年 9 月 24 日，鹿児島市にある武井内科クリニックの職員研修として担当教員の服巻が大学院生 1 名を研修サポーターとして同伴し，「動作法」に関する講義・演習を行いました。

講義では，動作法の開発経緯から発達援助法，心理療法として発展してきた歴史について解説しました。その後の演習では，片方の肩が痛く，腕が上がらない参加者をモデルとして，肩回りから背中，腰回りのリラクセイションを行いました。リラクセイションによって，上がらなかった肩が徐々に痛みを伴わずにも上げられるようになりました。その後，全員で肩凝り解消のための動作法によるリラクセイション課題を体験してもらいました。

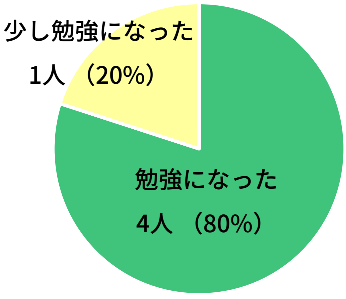


研修会は役に立ちましたか？

3) 病院新入職員フォローアップ研修

2014 年 10 月 31 日，担当教員の松浦が，大学院生 5 名と共に，医療法人玉昌会（高田病院・加治木温泉病院）フォローアップ研修を行いました。対象職員は，看護師・作業療法士・介護職・事務などといった職種の，入職後半年の新入職員でした。メンタルヘルス維持のための研修会として，「ストレスおよびストレスコーピングに関する基礎的講義」，「対人援助職および組織特有のストレスに関する講義」，「グループディスカッション（ストレス状況，ストレス対処法について）」，「グループワーク（簡易リラクセーション）」を実施しました。

参加大学院生は，研修会において見学およびグループ活動時の補助サポートを行い，産業メンタルヘルスにおける心理臨床の実際や，グループワーク時のファシリテーションを行う意義と難しさについて体験的に学びました。



研修会は勉強になりましたか？
（参加大学院生の回答）

4) 吉田北中学校におけるグループワーク

2014 年 12 月から 2015 年 2 月にかけて，担当教員の松浦・金坂が，帯同した大学院生 6 名とともに，鹿児島市立吉田北中学校の生徒を対象にグループワークを実施しました。2013 年度には，自己理解と他者理解を促すコミュニケーションプログラムを実施していましたが，今年度は，学年毎に異なるニーズを詳細に聴き取り，それに応じたプログラムを新たに開発しました。

学年毎のテーマは，1 年生が「思いやりの心（向社会的行動）を育む」，2 年生が「大人になることを考える」,3 年生が「不安に向き合う」でした。いずれの学年においても，アイスブレイクのセッションを皮切りに，ソーシャルスキルトレーニング（SST）,構成的グループエンカウンター（SGE），ストレスマネジメントなどの手法を柔軟に駆使し，大学院生の協力を得ながら実践しました。

グループワークの様子

(4) 日置市における支援活動

2014 年 9 月 5 日，日置市立湯田小学校の保護者を対象として，担当の平田が大学院生 5 名を研修サポーターとして同伴し，「ストレスと上手に付き合う子どもを育てる」というテーマで講演会を行いました。

内容は，子どもの心の健康について，不登校やいじめ，発達障害などといったトピックを交えた講演を行いました。また，併せて家庭での子どもの理解と関わり方に関する具体的な実践について講演を行いました。子どもの心の健康に関する啓発のために，保護者に理解できるような内容にて説明を行いました。

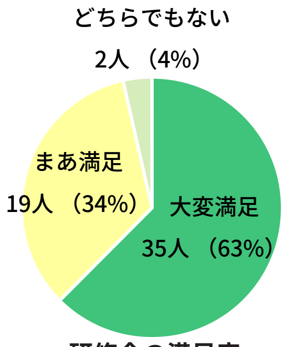
講演会の様子

(5) 種子島における支援活動

2014 年 11 月 28 日，中種子町の種子島こりーなにて，自閉症に関する普及・啓発を目的とした研修会・事例検討会を，担当教員の小澤，平田が行いました。対象者は，社会福祉法人暁星会の職員や，中種子町の周辺地区を中心とした支援者でした。事前の担当職員や事例提供者と打ち合せから，研修会企画者や地域のニーズ，事例に関する情報を確認・共有し，研修会へ入りました。

研修会では，自閉症に関する概説と，支援場面での理解と対応の説明を行いました。その後の事例検討会では，参加者から実際の支援事例の提供を受け，実際の対応について助言を行いました。地理的な制約により普段，職員が全員で研修会を受けることが少なかったとのことでしたが，今回の研修会が共通の知識や理解を得る機会となったようでした。

フロアを交えた事例検討会



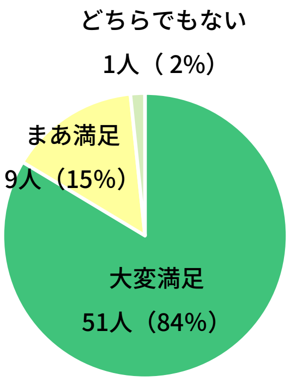
研修会の満足度

(6) 沖縄市における支援活動

2014 年 6 月 14 日，沖縄県発達支援通園事業連絡協議会主催の県通園事業連絡会での講演が行われ，担当教員の土岐が「新制度のなかで，今私達に求められていること～親子通園の意義～」というテーマで講演を行いました。

対象は，沖縄県発達支援通園事業連絡協議会事業所職員（保育士，幼稚園教諭，心理士，看護師，保健師，作業療法士，理学療法士，社会福祉士，事務職など）であり，目的は，障害者総合支援法による新制度に向けた対応を考えるための自治体向け及び専門家研修でした。

本講演により，参加者は，新しい制度に対応した子ども支援のあり方を学び，支援実践に応用できるアイデアを学ぶ機会となりました。



講演会の満足度

(7) 宮古市における支援活動

2014 年 7 月 29 日から 8 月 2 日にかけて，岩手県宮古市において福岡女学院大学大学院の大野博之教授ならびに奇恵英教授が中心となり活動している震災支援に，大学院 2 年生 3 名と担当教員の服巻を含む 4 名が参加しました。2011 年の夏（8 月）より毎年，夏（8 月）と春（3 月）の 2 回実施しています。

今回参加の大学院生は継続参加しており，2 名は 6 回目，1 名は 2 回目の参加であり，活動が宮古市に定着してきたばかりでなく，大学院生らの顔なじみもでき，地域密着の活動である印象が強くなりました。

内容は，支援者とご希望の方 1 対 1 の「リラクセイション（サート）教室」と子どもを対象とした集団プレイセラピー「あそぶ寺子屋」を行いました。

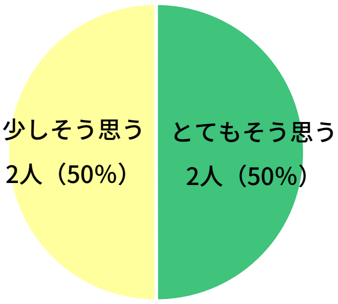
宮古市での支援

(8) 京都市における支援活動

2014 年 9 月 23 日から 9 月 25 日まで，京都市教育相談センター「こどもパトナ」において，担当教員の松木が京都市教育委員会京都市教育総合相談センター電話相談専門員に対する講演を行いました。

対象は，電話相談専門員，教育相談員，臨床心理士等の施設職員 30 名であり，事例検討も含めた具体的対応に関する講演がなされました。

参加した大学院生にとっては，施設職員からの研修や施設の見学を通して，教育相談システムに関する臨床心理学的支援の基本を学ぶ貴重な機会となりました。



教育相談へ具体的なイメージをもつことができましたか？

3. 専門職大学院における地域カウンセリング

今年度は，これまでの地域支援における継続性やさまざまな支援者とのつながりを活かし，外部の専門家が専門職大学へ来談し相談活動を行うという，デリバリー方式とは異なる新たな形態での支援活動を展開しました。

(1) 沖縄市の発達障害児支援に関する相談

沖縄市の子どもの相談に関わる職員を対象に，沖縄市の発達支援システムに関して，本研究科の教員である土岐がコンサルテーションを行いました。

沖縄市は今後，発達支援の中心となるセンターを立ち上げる予定であり，それに向けて健診時のフォローや療育対象者数，保護者へ診断を勧める際のアドバイス，療育の意義や意味などに関して説明を行いました。沖縄市の現状を踏まえた話し合いとなり，有意義な時間となりました。

相談会の様子

沖縄市の職員とプロジェクトスタッフ

(2) 鹿児島市での児童デイ立ち上げに関する相談

社会福祉法人旭生会の 2 名の職員が来談され，鹿児島市内において療育の拠点を立ち上げるにあたり，土岐がコンサルテーションを行いました。最初に鹿児島市の児童デイの現状や，地域間の隔差，そして地域のニーズについて共有を行いながら，立ち上げに当たり必要となるハード面，またソフト面に関して説明を行い，今後の継続したサポートを確認しました。2015 年春には，児童発達支援事業所「子育てサポートくっく」が開設され，発達支援が始まる予定です。

以上，2 つの活動をご紹介しました。今後も従来のデリバリー方式と併せて地域のニーズに応えるための相談・支援活動の柔軟な展開を検討しています。